教　育　史　学　会

第59回大会プログラム

２０１５年９月２６日（土）～２７日（日）

宮城教育大学

教育史学会第 59 回大会　参加のご案内

大会参加費・懇親会費

第 59 回大会では、学生会員の大会参加費を無料とします。また、会員でない学生（臨時学生会員）の参加費は特別料金とします。懇親会費については学生会員・臨時学生会員ともに特別料金としています。確認のため学生証をお持ちください。

大会参加費、懇親会費

	一般会員・臨時会員	学生会員	臨時学生会員
大会参加費	3,000 円	無料	1,000 円
懇親会費	4,000 円	2,000 円	2,000 円

受付

大会参加の受付は、２号館１階玄関通路で行います。２号館１階リフレッシュスペースにはクローク、210 教室には会員控室がございます。

受付で大会参加費をお支払いください。『発表要綱集録』と名札（未記入）等をお渡しいたしますので、名札にご所属とお名前の記入をお願いいたします。懇親会への参加も受け付けいたします。

学会年会費の納入は、学会事務局の受付で行います。

研究奨励賞授与式　および　総会

9 月 26 日（土）13 時 00 分～14 時 00 分まで、２号館２階 220 教室で研究奨励賞授与式および総会を開催いたします。

シンポジウム（公開）

シンポジウムのテーマは、「教育史研究と教師の教養形成」です。公開シンポジウムですので、会員以外の方も無料で参加できます。会場は、２号館２階 220 教室です。会場の詳細は、本プログラム 5～7 ページをご参照ください。

研究発表・コロキウム

個人発表会場、コロキウム会場はともに２号館の２階と３階です。

① 研究発表時間は、一人あたり 30 分（研究発表 25 分、質疑 5 分）です。
② 発表内容は未発表の研究に限ります。
③ 発表者が欠席の場合、発表時間の繰り上げは行いません。また、発表者が遅刻の場合は、発表資格を失います。ご注意ください。
④ 発表に関わるレジュメ、資料などを会場で配布される場合、十分な部数をご用意ください。大会準備委員会では、印刷・増刷に応じられません。
⑤ 当日資料の残部は、会員控室に置いておきますので、ご自由にお取りください。尚、残りました資料は大会事務局扱いといたしますので、ご了承ください。
⑥ 本大会では、コロキウムのいっそうの充実を図るため、正規の時間帯に組み込み、時間も長めに確保してあります。ふるってご参加ください。

懇親会

9 月 26 日（土）のシンポジウム終了後、18 時 00 分より萩朋会館（学内の学生会館）１階食堂で懇親会を開催いたします。懇親会費は、1 ページの「大会参加費、懇親会費」をご参照ください。懇親会ではバーコーナーも設ける予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

販売

２号館２階 223 教室・224 教室では、各書店による図書の販売がございます。ご利用ください。

昼食

9 月 26 日（土）、27 日（日）ともに萩朋会館食堂（学内の学生会館）を利用することができます。大学周辺には飲食店やコンビニエンス・ストアはございませんので、ご注意ください。

会場までのアクセス

駐車場の用意はありませんので、バスやタクシーなど公共の交通機関をご利用ください。

JR　仙台駅から仙台市営バス　※全て 9 番乗り場から　運賃 230 円
仙台駅西口バスプール【9番】乗り場から

- 「715 宮教大」「710 宮教大・青葉台」「713 宮教大・成田山」行き乗車
  「宮教大前」下車（所要時間約20分）
- 「719 工学部経由 動物公園循環」 情報科学研究科前下車、徒歩10分
- 「750 工学部経由 緑が丘三丁目」 情報科学研究科前下車、徒歩10分
- 「757 工学部経由 西の平・長町南駅」情報科学研究科前下車、徒歩10分

仙台駅西口から本学までのタクシー料金は 2,300円（約5km：所要時間10分）程度です。

宿泊

各自での手配をお願いいたします。大会準備委員会による斡旋は行いませんので、ご了承ください。

託児サービス

本大会では託児は行いません。

問い合せ先

教育史学会　第 59 回大会準備委員会　事務局

〒980－0845　宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地
宮城教育大学　幼児教育講座　佐藤哲也研究室気付
Tel: 022-214-3512　FAX: 022-214-3512
E-mail：　kyouikushi59@gmail.com
ホームページ：http://kyouikushi59.miyakyo-u.ac.jp
（教育史学会ホームページにリンクが貼ってあります）
担当：佐藤　哲也（宮城教育大学教育学部教授）

教育史学会　第 59 回大会準備準備委員会

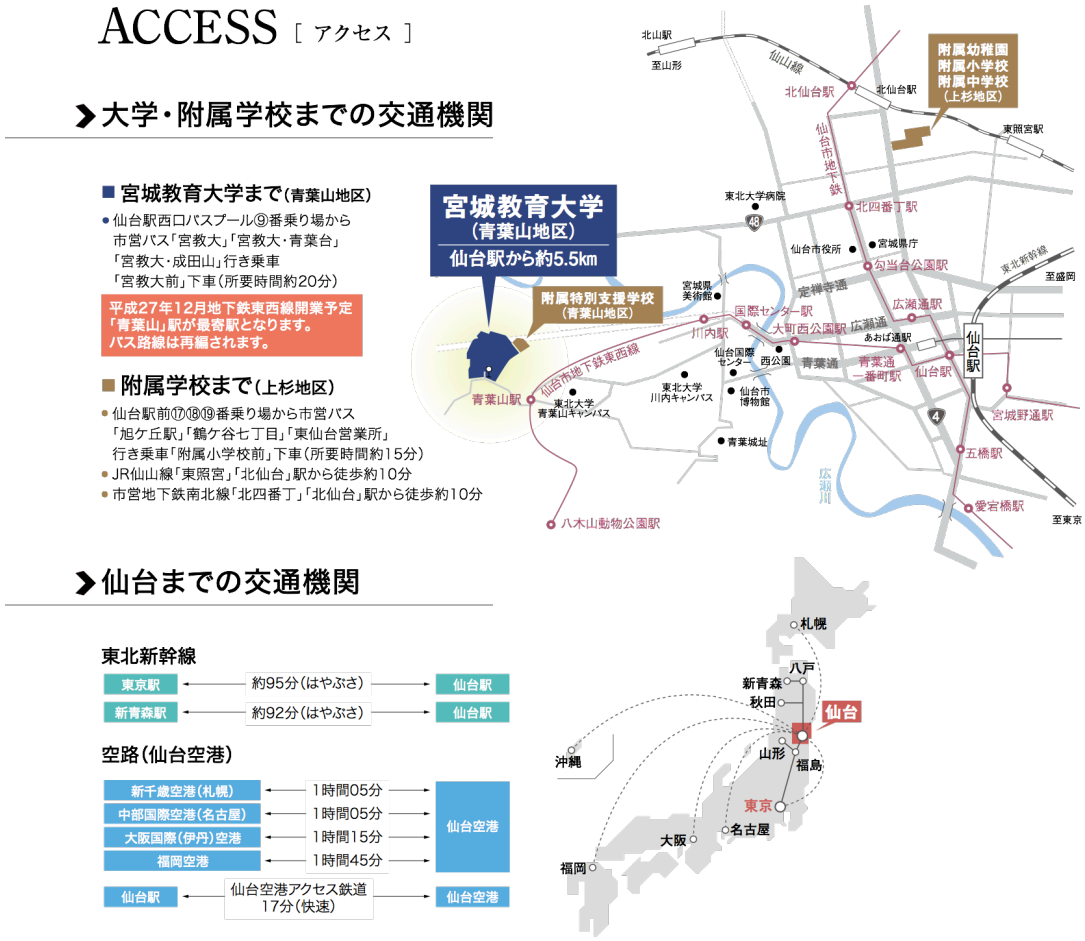
委員長　笠間賢二　事務局長　佐藤哲也
泉山靖人、大迫章史、金井徹、佐藤幹男、清水禎文、八鍬友広、山谷幸司

タイムスケジュール

	2015年9月26日（土）	2015年9月27日（日）	
8:15	受　付 （２号館１階玄関通路）	受　付 （２号館１階玄関通路）	8:15
9:00	研究発表 ２号館２階 221・226・227・229 ２号館３階 230・236	研究発表 ２号館２階 221・226・227 ２号館３階 230	9:00
			11:30
12:00	昼休み	昼休み	12:30
13:00	研究奨励賞授与式　総会 （２号館２階 220）	研究発表 ２号館２階 221 ２号館３階 230	
14:00	休憩		
14:10	シンポジウム （２号館２階 220）		15：00
		移動	
		コロキウム ２号館２階 221・226・227	15：10
			17：30
17:45	移動	仙台駅行きバス時刻表（土曜日） 17時48分、18時08分、18時18分 20時03分、20時23分、21時03分	
18:00	懇親会 （萩朋会館）	仙台駅行きバス時刻表（日曜日） 17時48分、18時18分、18時28分	
20:00			

※9月25日（金）に理事会、機関誌編集委員会、書評委員会が萩朋会館２階会議室で行われます。

交通案内図



宮城教育大学へのアクセス（仙台市営地下鉄東西線の開通は 2015 年 12 月 6 日予定です。）
http://www.miyakyo-u.ac.jp/about/publicity/pdf/graduate2016/34.pdf

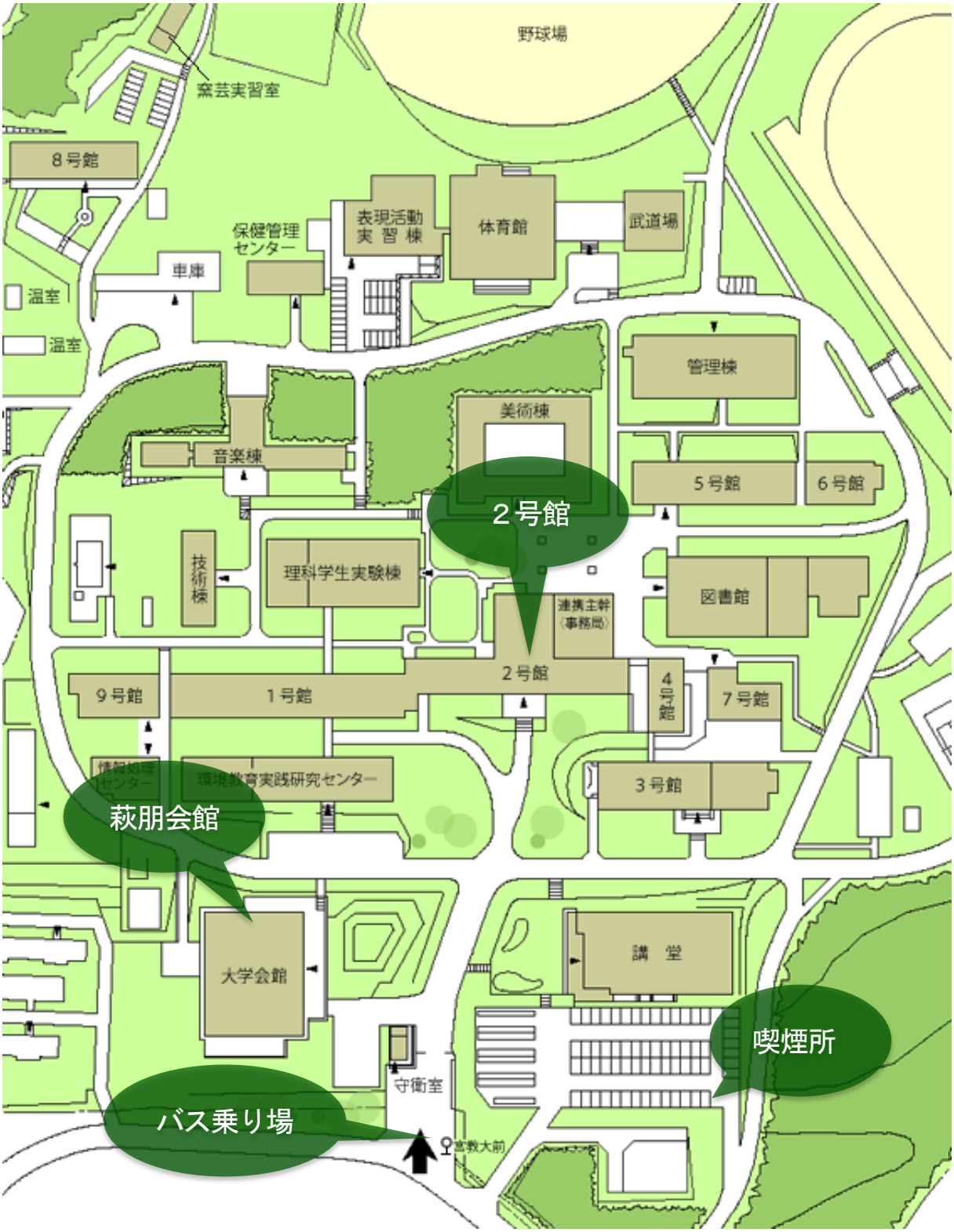
仙台空港アクセス鉄道をご利用の場合
仙台空港より仙台駅（終点）所要時間：快速 17 分、各駅停車 25 分　運賃 650 円

仙台駅から仙台市営バスをご利用の場合
全て 9 番乗り場から　運賃 230 円

- 「715 宮教大」「710 宮教大・青葉台」「713 宮教大・成田山」行き乗車
  「宮教大前」下車（所要時間約20分）
- 「719 工学部経由 動物公園循環」 情報科学研究科前下車、徒歩10分
- 「750 工学部経由 緑が丘三丁目」 情報科学研究科前下車、徒歩10分
- 「757 工学部経由 西の平・長町南駅」情報科学研究科前下車、徒歩10分

タクシーをご利用の場合
仙台駅から約５km　所要時間約10分　運賃2, 300円程度

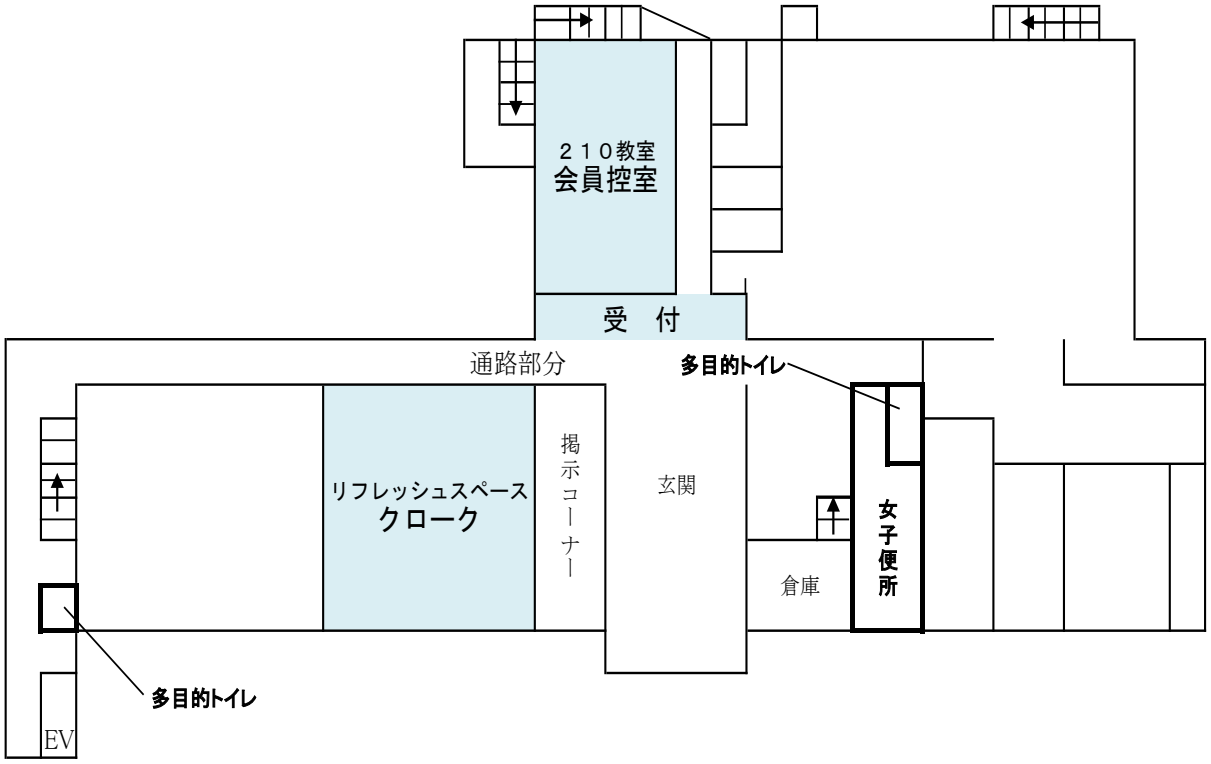
構内案内図



〇２号館（１階：受付、クローク、会員控室　２階・３階：研究発表、シンポジウム、コロキウム他）
〇萩朋会館（１階：食堂、２階：会議室）
〇バス乗り場

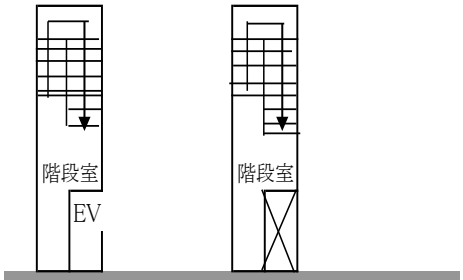
会場案内図

2号館(講義棟)

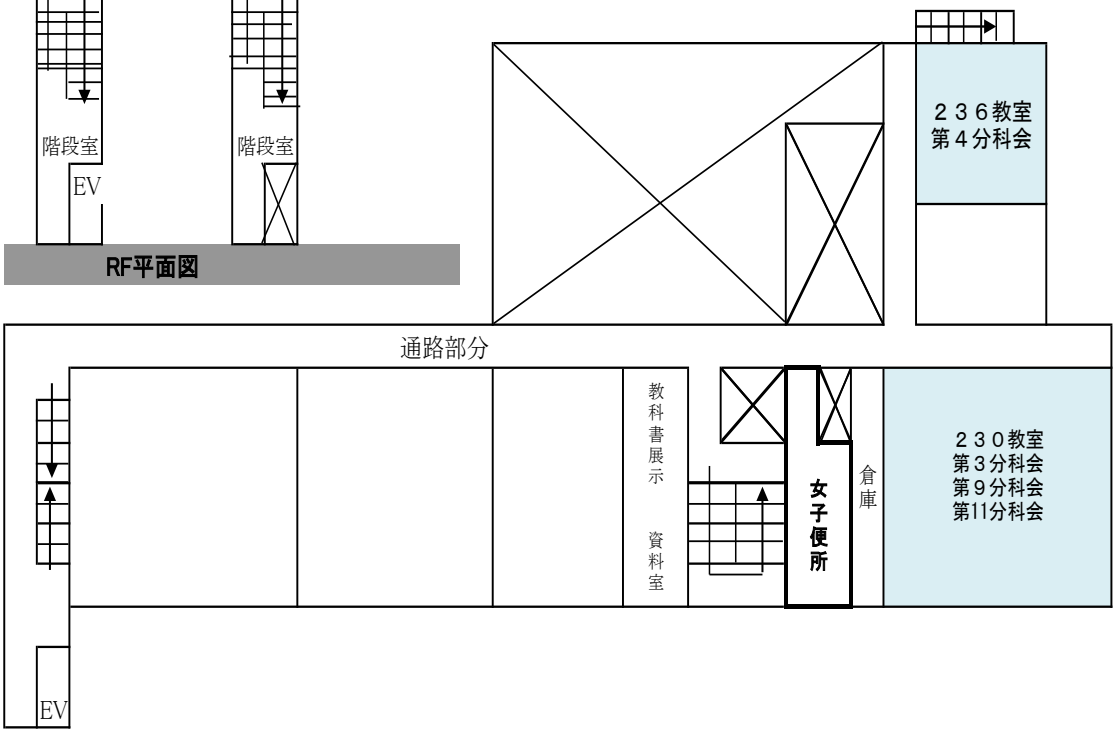


1F平面図

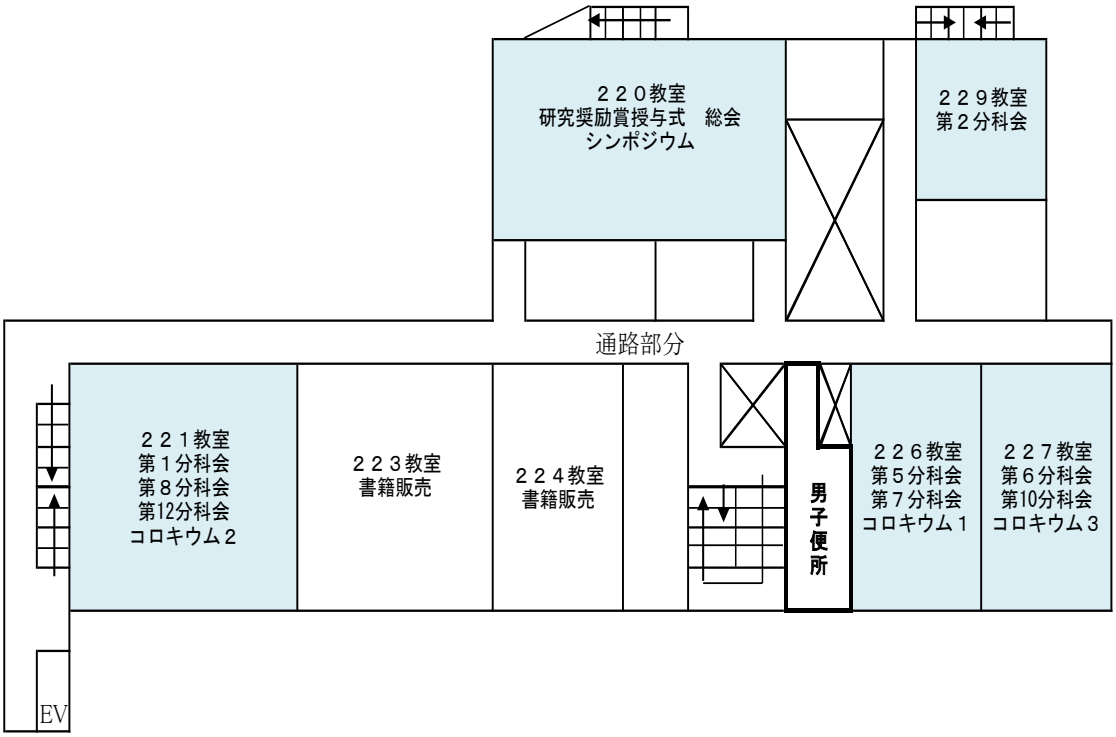
2号館(講義棟)



RF平面図



3F平面図



2F平面図

シンポジウム

テーマ：教育史研究と教師の教養形成

日　時：2015 年 9 月 26 日（土）14:00～17:45
場　所：宮城教育大学　２号館２階　220 教室

提　案　者	船寄　俊雄（神戸大学）
	岩田　康之（東京学芸大学）
	山﨑　洋子（武庫川女子大学）
指定討論者	前田　一男（立教大学）
	遠藤　孝夫（岩手大学）
司　会　者	佐藤　幹男（石巻専修大学）
	佐藤　哲也（宮城教育大学）

テーマ設定の趣旨：

教育史研究は教師の教養形成にどう貢献しうるのか、これを基本的課題としたい。

近年の教師教育政策（とりわけ教員養成政策）では、「実践的指導力」を育成すべき資質能力の中核に据え、学校現場・教育委員会との連携に焦点づけられた現場主義とでもいうべき方策を進行させている。そこには大学での養成や研修への不信が見え隠れしている。

一方、教育史分野は免許法上で一定の位置を占めているもののその優先度は高いものではなく、また各大学での教育史関係科目（教職科目）の開設も逓減傾向にある。直截にいえば、教育史分野は「劣勢」に立たされているのが現状だといわざるをえない。こうした状況は歴史的思考を欠落させた教師を輩出する事態をもたらしているといってよいだろう。

教育史研究は教師の教養形成にどのように貢献しうるのか、そのことが、教育史研究のあり様と教師の教養のあり様の検討を踏まえつつ、改めて問われなければならないのではないか。この課題は、本学会員の多くが何らかの形で教師教育に携わっていることを考えると、避けて通れない共通の課題だといえる。

そこで、教師教育の研究者 3 名にそれぞれのフィールドからご報告いただき、また指定討論者 2 名からコメントをいただき、上記課題について議論を深めていきたい。

〈報告者プロフィール〉

船寄 俊雄（ふなき・としお）

神戸大学教授。博士（教育学）。 主著に、『近代日本中等教員養成論争史論』（学文社、1998）。編著に『近代日本中等教員養成に果たした私学の役割に関する歴史的研究』（学文社、2005）、『論集現代日本の教育史 2　教員養成･教師論』（日本図書センター、2014）、主要論文に、「明治初期府県制定小学校教師心得にみる教師像の性格」（『教育学研究』第 51 巻第 4 号、1984）、「『大学における教員養成』の歴史的研究」（『日本の教育史学』第 37 集、1994）、「戦前･戦後の連続と断絶の視点から見た『大学における教員養成』原則」（『教育学研究』第 80 巻第 4 号、2013） などがある。

岩田 康之（いわた・やすゆき）

東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター教授。教育学修士。共編著に、東アジア教員養成国際共同研究プロジェクト編『「東アジア的教師」の今』（東京学芸大学出版会、 2015）、岩田・別惣淳二・諏訪英広編『小学校教師に何が必要か』（東京学芸大学出版会、 2013）、岩田・三石初雄編『現代の教育改革と教師』（東京学芸大学出版会、 2011）、主要論文に、「教員養成改革の日本的構造―「開放制」原則下の質的向上策を考える―」（『教育学研究』第 80 巻第 4 号、2013）などがある。

山﨑 洋子（やまさき・ようこ）

武庫川女子大学言語文化研究所客員教授。博士（学術）。主著に、『ニイル「新教育」思想の研究－社会批判にもとづく「自由学校」の地平－』（大空社、1998）。共編著に、『講義　教育原論－人間・歴史・道徳－』（成文堂, 2011）、監訳に、『進歩主義教育の終焉』（知泉書館、2013）、主要論文に、「「教育の新理想」と新教育連盟に関する考察－1920 年代イギリス新教育運動の実態解明にむけて－」（『日本の教育史学』第 41 集, 1998）、「イギリス教員養成の歴史から何を学ぶか―教職の複雑さと進歩主義教育の時代―」（『近代教育フォーラム』23、 2014）などがある。

〈指定討論者プロフィール〉

前田 一男（まえだ・かずお）

立教大学教授。文学修士。日本教育史関係の編著・共著として、『ミッション・スクールと戦争』（東信堂、2008）、『近代日本における知の配分と国民統合』（第一法規、1993）、『総力戦体制と教育』（東大出版会、1987）。地域教育史関係の共著として、『横浜市史Ⅱ 通史編』一（上）～三（下）（横浜市、1993～2003）、『長野県教育史 総説編三』（長野県教育史刊行会、1983）。教師教育関係の共著として、『教員文化の日本的特性』（多賀出版、2003）、『日本の教師文化』（東大出版会、1994 年）、『教師のライフコース』（東大出版会、1988）などがある。

遠藤 孝夫（えんどう・たかお）

岩手大学教授。博士（教育学）。主著に、『近代ドイツ公教育体制の再編過程』（創文社、1996）、『管理から自律へ　戦後ドイツの学校改革』（勁草書房、2004）。共編著に、『教員養成学の誕生　弘前大学教育学部の挑戦』（東信堂、2007）、主要論文に、「ヴァルドルフ教員養成の公的地位獲得と教員養成の国家独占の否定」（『教育学研究』第 80 巻第 1 号、2013）、「《人間形成》としての教員養成とヴァルドルフ教員養成の特質－「芸術的訓練」の人間形成的役割－」（『岩手大学教育学部研究年報』第 74 巻、2015）などがある。

研 究 発 表

9 月 26 日（土）　第 1 日　午前の部（9：00～）

第 1 分科会会場　　２号館２階　221 教室

司会　：湯川 次義（早稲田大学）　高橋 陽一（武蔵野美術大学）

〔1〕　9：00　良妻賢母主義と身体への管理 ―女学生の髪型を中心として―
堀田　奈々絵（学習院大学・院）

〔2〕　9：30　近代日本国語教育における自然愛の養成に関する史的考察
―第 3 期国定教科書『尋常小学国語読本』の使用時期を中心に―
林　潤平（京都大学・院／日本学術振興会特別研究員）

〔3〕　10：00　少年教護法施行期における家庭学校の教育
二井　仁美（北海道教育大学）

〔4〕　10：30　甲賀ふじのアメリカ留学と幼稚園教育実践
永井　優美（東京成徳短期大学）

〈総合討論〉　11：00～11：30

第 2 分科会会場　　２号館２階　229 教室

司会　：　米田 俊彦（お茶の水女子大学）　吉川 卓治（名古屋大学）

〔5〕　9：00　大学令下の商業系官立単科大学予科に関する一考察 ―神戸商業大学を事例として―
山本　剛（早稲田大学・院）

〔6〕　9：30　官立高工の集中的創設・拡張 ―高等教育計画の基本と政治―
田村　幸男（目白大学）

〔7〕　10：00　1920～30 年代における長野県の「実科中等学校」に関する一考察
―実業補習学校の発展形態の一つとして―
三羽　光彦（芦屋大学）

〔8〕　10：30　樺太庁拓殖学校の再編
池田　裕子（東海大学札幌キャンパス）

〈総合討論〉　11：00～11：30

第 3 分科会会場　　２号館３階　230 教室

司会　：山田 恵吾（埼玉大学）　外池 智（秋田大学）

〔9〕　9：00 1920 年代の奈良女子高等師範学校附属小学校における「合科学習」の課題と実践
—「中合科学習」と「大・小合科学習」との接続を中心に—
杉村　美佳（上智大学短期大学部）

〔10〕9：30 岡倉由三郎の「国際語としての英語」をめぐる思想と行動
—1930 年代初めのベーシック・イングリッシュの受容を中心にして—
平田　諭治（筑波大学）

〔11〕 10：00　日中戦争期における「学校常会」論の広がり
—培地となった「国民訓育連盟」と「日本青年教師団」—
須田　将司（東洋大学）

〔12〕 10：30 戦後初期における旧軍関係教育機関出身者への施策
—「非軍事化」と「民主化」の動向とその射程に着目して—
白岩　伸也（筑波大学・院）

〈総合討論〉　11：00～11：30

第 4 分科会会場　　２号館３階　236 教室

司会　：清水 康幸（青山学院女子短期大学）　大島 宏（東海大学）

〔13〕 9：00 戦後教育改革期の社会科における道徳的「学力」の測定・評価に関する研究
～「全国小・中学校児童生徒学力水準調査」を手がかりに～
松本　和寿（筑紫女学園大学）

〔14〕 9：30 占領下の教員養成改革における教職教育拡充と教育学教員の育成
—ＣＩＥ教師教育担当官カーレー（Verna A. Carley）の会議報告の検討から—
高橋　寛人（横浜市立大学）

〔15〕 10：00 占領期日本における幼稚園と小学校の関係をめぐる CIE の見解
—ルス・G・ストリックランドの思想に着目して—
織田　望美（お茶の水女子大学・院／日本学術振興会特別研究員）

〔16〕 10：30 文部省『合奏の本』（1948 年発行）とその音楽教育史上の位置
樫下　達也（神戸大学・院／日本学術振興会特別研究員）

〔17〕 11：00 戦後教育改革における中央教育研究所の役割
－矢口新の仕事を中心にして－
越川　求（千葉県立保健医療大学）

〈総合討論〉　11：30～12：00

第 5 分科会会場　　２号館２階　226 教室

司会 ： 一見 真理子（国立教育政策研究所） 北村 嘉恵（北海道大学）

〔18〕 9：00 近代中国における学校運動会の展開
浅沼　千恵（東北大学・院）

〔19〕 9：30 西スニト女子家政実験学校における教育の目的と内容
―徳王と日本との関係に着目して―
劉　迎春（京都大学・院／日本学術振興会特別研究員）

〔20〕 10：00 芝山巌の「神社」化 ―台湾教育会による整備事業を中心に―
山本　和行（天理大学）

〔21〕 10：30 日本統治期台湾の高等女学校における裁縫科教育
―台北州立台北第三高等女学校を例として―
滝澤　佳奈枝（お茶の水女子大学・院）

〔22〕 11：00 蔡元培と上原専禄の大学論の比較研究
白　梅紅（愛知大学・院）

〈総合討論〉 11：30～12：00

第 6 分科会会場　　２号館２階　227 教室

司会 ： 宮本 健市郎（関西学院大学） 三時 眞希子（広島大学）

〔23〕 9：00 イギリスにおける市民大学の誕生と学士課程教育の質保証
―1900 年バーミンガム大学成立過程を中心に―
中村　勝美（広島女学院大学）

〔24〕 9：30 イギリス児童諸法の統合化にみる普遍的子ども像の構築
―児童法(1908)をめぐる議論を手がかりに―
草野　舞（九州大学・院）

〔25〕 10：00 アメリカ高等教育における近代諸科学の受容とイェール大学
―カレッジとサイエンティフィック・スクールの関係に着目して―
原　圭寛（慶應義塾大学・院）

〔26〕 10：30 1910～1930 年代米国カリフォルニアにおける移民孤児教育
―メリノール教会の活動を中心に―
大森　万理子（九州大学・院）

〔27〕 11：00 ブロンスキーの児童学的教育学とその意義について
所　伸一（北海道大学・名誉）

〈総合討論〉 11：30～12：00

9 月 27 日（日）　第２日　午前の部（9：00～）

第 7 分科会会場　　２号館２階　226 教室

司会　：木村 政伸（新潟大学）　川村 肇（獨協大学）

〔28〕　9：00　龍野藩における藩校の成立・展開と藩儒の役割
浅井　雅（神戸大学・院）

〔29〕　9：30　清学院（寺子屋清光堂）の自筆往来物 ―幕末・維新期堺の一事例として―
和田　充弘（同志社大学 非常勤）

〔30〕　10：00　中村正直・山上卓樹（1855-1931）・武相地域民権系勢力の 3 者間の見解相違と影響関係
―同人社人脈をめぐる研究から見えてくるもの―
岡本　洋之（兵庫大学）

〔31〕　10：30　開拓使統治期北海道の地域における学校の開設
井上　高聡（北海道大学大学文書館）

〈総合討論〉　11：00～11：30

第 8 分科会会場　　２号館２階　221 教室

司会　：谷 雅泰（福島大学）　軽部 勝一郎（熊本学園大学）

〔32〕　9：00　森文政と地方制度改革
湯川　文彦（東京大学大学院人文社会系研究科研究員）

〔33〕　9：30　井上毅の「国家富強」論と実業教育
―実業教育政策にみる公教育としての貧民教育―
柳田　文男（同志社大学・院）

〔34〕　10：00　明治後期における高等学校改革構想 ―「高等普通教育」の制度化に着目して―
吉岡　三重子（お茶の水女子大学・院）

〔35〕　10：30　学校を建てる、教員を招く
―近代北海道におけるアイヌ民族による学校の設置：その再調査―
小川　正人（北海道博物館）

〈総合討論〉　11：00～11：30

第 9 分科会会場　　２号館３階　230 教室

司会　：　小野 雅章（日本大学）　荒井 明夫（大東文化大学）

〔36〕　9：00 1890 年代における初等教育政策の展開と地方部学事会
湯川　嘉津美（上智大学）

〔37〕　9：30 明治期のヘルバルト主義における「体育」：概念の多様性とその後への影響
中野　浩一（日本大学）

〔38〕　10：00 「師範学校規程」制定時の岡山県における私設小学校教員養成所
―師範学校の充実と低下した私設小学校教員養成所の役割―
遠藤　健治（美作大学）

〔39〕　10：30 1910 年から 1920 年代後半における北海道の初等教育の実態
坂本　紀子（北海道教育大学）

〔40〕　11：00 小学校における二重学年制の導入と実施状況
柏木　敦（大阪市立大学）

〈総合討論〉　11：30～12：00

第 10 分科会会場　　２号館２階　227 教室

司会　：荻路 貫司（福島大学）　石堂 常世（郡山女子大学）

〔41〕　9：00　シャルル・ロランの教育論からみたフランス近代公教育の形成過程
越水　雄二（同志社大学）

〔42〕　9：30　フランス第二帝政期における世俗の女子教育　－皇后ウージェニーに着目して
山内　由賀（京都大学・院）

〔43〕　10：00　20 世紀フランスにおける絵本と子育て―1930 年代のペール・カストール絵本を中心に
井岡　瑞日（立命館大学・京都学園大学 非常勤）

〔44〕　10：30　G. D. ストッダードの高等教育思想とアートに関する考察
一般教育と専門教育の統合の視点から
渡辺　かよ子（愛知淑徳大学）

〈総合討論〉　11：00～11：30

9 月 27 日（日）　第 2 日　午後の部（12：30～）

第 11 分科会会場　　２号館３階　230 教室

司会　：　木村 元（一橋大学）　船橋 一男（埼玉大学）

〔45〕 12：30　愛知県三河地方における戦後生活綴方運動の地域的展開
—1953 年・愛知県作文教育者協議会の結成と解散をめぐって—
白井　克尚（愛知東邦大学）

〔46〕 13：00　1950 年代社会科における「郷土」の位置
—郷土教育全国協議会による「自由労働者」の教材化に着目して—
須永　哲思（京都大学・院／日本学術振興会特別研究員）

〔47〕 13：30　京都市立養正小学校「朝鮮学級」の成立過程
—1950 年代前半における公教育改編の試みとして—
松下　佳弘（京都大学・聴講生）

〔48〕 14：00 初期琉球政府の教育カリキュラム：「基準教育課程（試案）」（1954-56）にみる自立への模索
杉山　悦子（都留文科大学 非常勤）

〈総合討論〉　14：30～15：00

第 12 分科会会場　　２号館２階　221 教室

司会　：廣田 照幸（日本大学）　水原 克敏（早稲田大学）

〔49〕 12：30 1973 年養護学校義務化政策に関する研究
久米　祐子（九州大学・院）

〔50〕 13：00 高等学校家庭科における科目「家庭一般」の成立過程と山本キクの役割
瀬川　朗（東京都市大学付属中学校・高等学校 非常勤）

〔51〕 13：30 高坂正顕の歴史観 —「期待される人間像」再批判のために—
山田　真由美（慶応義塾大学・院）

〔52〕 14：00 持田栄一の保育制度論の再構成
—ルンビニー学園における実践の「共有化」との関わりに着目して—
稲井　智義（福井大学）

〈総合討論〉　14：30～15：00

コロキウム

9 月 27 日（日）　第 2 日　15：10～17：30

コロキウム１会場　　２号館２階　226 教室

近代日本における教育情報回路と教育統制（４）

オルガナイザー　　梶山　雅史（岐阜女子大学）

報告者　　白石 崇人（広島文教女子大学）
日本教育会解散後における中央教育会の再編
―日本教育協会・日本連合教育会成立まで―

報　告　者　　佐藤 幹男（石巻専修大学）
「教育会」の遺産は戦後にどう継承されたのか

設定趣旨

本コロキウムは、2005 年第 49 回大会以来、”教育情報回路としての教育会の総合的研究”をテーマとして企画し、第 11 回目を迎える。戦前における最大の教育団体・組織であった中央・地方教育会のほぼ７０年に及ぶ活動実態と各時代における歴史的特質・意味を明らかにすることを目指してきた。昨年は、戦時一大翼賛団体として機能した教育会がどのように戦後を迎えたか。歴史の大きな転換点における教育団体の変容、その実相の解明を目指し 3 本の報告を行った。本年は引き続き戦前から戦後への教育団体の再編の動向について研究報告を行い、熱いディスカッションの場が生まれることを願っている。

1944（昭和 19）年 5 月に全国単一教育団体へと統合された「大日本教育会」が、戦後 1946（昭和 21）年 7 月 GHQ から改組の「勧告」を受け、「日本教育会」と改称し、各府県支部を独立体とし日本教育会を連合体に改組した。組織再生の道をさぐるのであるが、全国的に労働組合・教職員組合結成の動きが高まり、「日本教職員組合」の結成を背景に 1948（昭和 23）年 8 月、「日本教育会」は解散に至った。教育会と県教組の二本立(両立)論と教組一本化論がせめぎ合い、校長たちと青年教師たちとの世代の対立等々、教育会「終焉」と日教組結成の交錯した経緯は、各県ごとに一様ではない。各地の第一次資料を踏まえた本格的な分析が必要となる。

1948（昭和 23）年 2 月、長野軍政部の指令によって存続した信濃教育会は、その年 8 月日本教育会総会における解散決議（138 対 51）に徹底的に反対を表明した。同じく中央教育会存続の立場をとる東京都教育会ほか数県が協議を重ね、翌年 11 月に教育会連合体としての「日本教育協会」を結成。さらに 1952（昭和 27）年には加盟県市を増やし「日本連合教育会」と改称し、今日に及んでいる。新資料によってその詳細を明らかにする。

また、戦前、教員の現職研修を担った教育会の大半が解散した戦後、教員の再教育、教員研修を担ったのは誰でどのように行なわれたか。校長会の実態、教育研究所設立の動向について新たな研究成果と研究課題を投げかけ、戦後の展開を論じ合ってみたい。

コロキウム

9 月 27 日（日）　第 2 日　15：10～17：30

コロキウム 2 会場　　2 号館 2 階　221 教室

戦時下における教育史学の帰趨 ―海後宗臣を中心として―

オルガナイザー　斉藤利彦（学習院大学）
オルガナイザー　森川輝紀（福山市立大学）

司会　逸見勝亮（北海道大学・名誉）

報告者　斉藤利彦（学習院大学）
報告者　高橋陽一（武蔵野美術大学）
報告者　清水康幸（青山学院女子短期大学）

指定討論者　寺崎昌男（東京大学・名誉）

設定趣旨

戦後 70 年を迎える今年は、あらためて「戦前」とは何であったのか、さらには「戦前」と戦後の連続性と非連続性が問われなければならない年となるだろう。

本年、期せずして、「近代日本教育史研究の開拓者」とされる海後宗臣（東京大学名誉教授・日本教育学会元会長）の大量の未公刊原稿が発見された。それは、東洋経済新報社が「紀元二千六百年」を記念し、1940 年から刊行を開始した全一八巻の『現代日本文明史』のうち、未刊に終わった第一五巻『教育史』の主要部の原稿であることも確認された。

本コロキウムでは、海後の戦前期における教育史学の展開を、戦前の教育史学が戦時下においてたどった帰趨をふまえて検討しようとするものである。

コロキウム

9 月 27 日（日）　第 2 日　15：10～17：30

コロキウム 3 会場　　２号館２階　227 教室

「帝国大学体制」とは何だったのか

オルガナイザー　堀之内　敏恵（岩手県立大学）
報　　告　　者　田中　智子（同志社大学）
「帝国大学」誕生前後における「大学」設立運動の視点から

指定討論者　　吉川　卓治（名古屋大学）

設定趣旨

「帝国大学体制」とは、寺崎昌男氏らが『日本近代大学成立期における国家、学術体制ならびに大学の関連構造に関する研究』（1989）で提示し、その後、中野実氏が『近代日本大学制度の成立』（2003）所収の論考等で用いたことにより普及するに至った「分析概念」である。「帝国大学を根幹として帝大とそれをめぐる諸制度が国家体制と密接な関係を保ちながら調整され、大きく構造化されていった、その全体構造を表現するもの」あるいは、「帝国大学を中心とする軍・産・官・民のネットワーク」などの定義がみられるが、いずれもその含意は明瞭ではない。

オルガナイザー・報告者は、この「帝国大学体制」という「分析概念」を援用している論考を探し、そこでの含意を検討してきた。諸論考を検討する中で、「国制知」（瀧井一博氏）、「学術の独占体」（天野郁夫氏）、「帝国大学モデル」（馬越徹氏）など、類似概念との異同の明確化、また時期区分等の必要性を感じるようになった。中野実氏がイメージしていた「帝国大学体制」の射程を再検討しつつ、コロキアムという場を活用してできるだけ多くの関連研究者にイメージを開陳していただき、新たな概念規定にむけての課題と方法を共有できればと考えている。